



「日本遺産」って何だろう？

日本遺産とは？

地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を発信していこうとするものです。今年初めて、日本各地で 18 件の日本遺産が認定されました。

長崎県内からは？

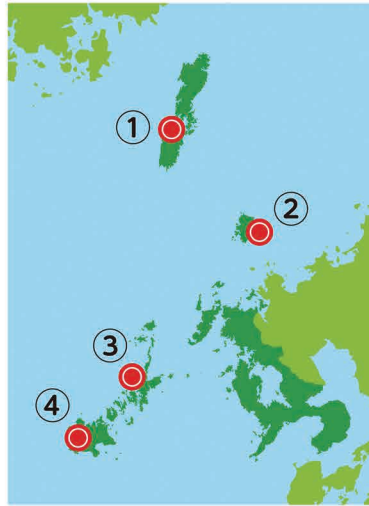
長崎県内からは、「国境の島 杵岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」が認定を受けました。認定された文化財は、対馬市・杵岐市・五島市・新上五島町にまたがっています。

では、これらの地域のどんな歴史的魅力や特色が認められたのでしょうか？

長崎県の島は、古い時代から日本本土と大陸の間を結ぶ海上交通の重要な場所にあり、交易・交流の拠点でした。特に、国境を接する朝鮮半島との関わりは深く、杵岐は弥生時代、海上交易によって王都を築き、対馬は室町時代以降、朝鮮との貿易や外交の仕事を独占しました。交流が行われたことを示すものには、住まいや城の跡・庭園などの文化財、焼酎やめん類などの特産品、古いお祈りなどの伝統行事などがあり、これらは今につながっています。

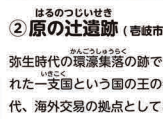
国境の島ならではの、外国とぶつかったりうちとけあったりを繰り返しながらも、ずっと交流がつづいているこれらの島は、国と国、民と民の深い絆が感じられる全国でもめったにない地域と言うことができます。

認定された文化財の例



① 金田城跡 (対馬市)

唐(中国)や新羅(朝鮮半島の国)の日本侵略を防ぐ目的で築かれた朝鮮式の山城の跡。山深い城山の頂上からは、1300年以上前に防人が見つめていた国境の海を見ることができます。



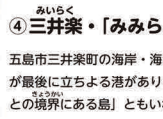
② 原の辻遺跡 (杵岐市)

弥生時代の環濠集落の跡で、中国の古い歴史書『魏志倭人伝』に書かれた一支国という国の王の都があったと考えられている遺跡。弥生時代、海外交易の拠点としてとても栄えました。



③ 日島の石塔群 (新上五島町)

40基以上の石塔の碑や石が集まっているところ。中国や朝鮮半島の交易品を福井県の若狭湾に運び、帰りの船にもおもりとして石塔を持ち帰ったともいわれ、海上交易の拠点だったと考えられています。



④ 三井楽・「みみらくのしま」 (五島市)

五島市三井楽町の海岸・海。日本の西の端にある五島は、遣唐使の船が最後に立ちよる港がありました。「くくなった人に逢える島」「異国との境界にある島」ともいわれています。

調べてみよう

1. 「国境の島 杵岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」で認定された他の文化財や行事について、また、他の県の日本遺産についても調べてみましょう。
2. 皆さんの周りで、日本遺産に登録できそうな地域の歴史的魅力や特色がありませんか？ 調べてみましょう。

長崎県の遺跡紹介！ たかしま 鷹島海底遺跡



鷹島海底遺跡は、松浦市鷹島町の沖合いにある遺跡です。特に地図の赤い部分、鷹島神崎遺跡は、日本で初めての海底遺跡として平成 24 年に遺跡の中でも重要な遺跡である国史跡に指定されました。

鷹島海底遺跡がある海域は、鎌倉時代に日本と元の戦いがあった場所です。1281年に起きた弘安の役と呼ばれる戦いのさいに、元軍の船団が暴風雨に会い、数多く沈没した地点と伝えられています。

これまでの調査でこの遺跡からは元軍の船の一部や刀や矢などの武器、漆製品や陶器などたくさんの遺物が見つかっています。埋蔵文化財センターは今年 8 月にこの遺跡の一部を調査しました。調査の結果、元軍が使っていた陶器や、石弾という武器、磚と呼ばれるレンガなど、106 点の遺物が見つかりました。今回は発見した遺物の中から 6 点を引き上げています。

いぶつ 遺物ってなんだろう？

昔の人が使っていた道具のことです。土器や石器などいろいろなものがあります。



水中の調査風景です。陸上と違い、水中での調査は大変です。



今回鷹島海底遺跡から引き上げた遺物 6 点です。

長崎県埋蔵文化財センターニュース

杵岐高校東アジア歴史・中国語コースの授業を行っています



遺跡の発掘調査を手伝ったよ！

埋蔵文化財センターは、離島留学制度で学ぶ杵岐高校「東アジア歴史・中国語コース」の高校生に対して、歴史の授業や発掘の実習などを行っています。このコースで勉強した高校生の中には、大学に進んで、歴史学や考古学、中国語の勉強に取り組んでいる人もいます。

※高校生の離島留学制度

長崎県の対馬高校・杵岐高校・五島高校の 3 校で行われています。高校 3 年間親元をはなれて、それぞれのコースにおいて国際交流(対馬)、歴史・中国語(杵岐)、スポーツ(五島)などの勉強をしています。

「埋文MA | BUN」学びのサポート」で 出前授業や石器・土器の貸出などを行っています



原の辻遺跡で発見された人面石。センターの 3D プリンターで作ったよ！

埋蔵文化財センターは、石器や土器を使って、小学校など各学校の歴史の授業のお手伝いをしています。授業の中では、ふだんさわることができない本物に触れることができるなど貴重な体験ができ、児童・生徒のみならずにも喜ばれています。また、センターにいられた皆さんには、「3D プリンター」や「エックス線透過装置」などふだんセンターで使っている機器を紹介したり、100 万点に及ぶ石器や土器などの収蔵物を見てもらったりする活動も行っています。